

# 和地ひとみレポート No.38

平成24年 第1回定例会 和地ひとみ一般質問①

## せっかく取り組む『介護予防事業』なら、効果を検証すべき



### ■事業に対する市のスタンスは

…H24年第1回定例会で、和地ひとみは以下の2つのテーマについて一般質問をおこないました。

- ① 学校教育について。特に各校の裁量の出る「総合的な学習の時間」と「キャリア教育」について
- ② 介護予防事業について、特に「東大和元気ゆうゆう体操」

について質問を行いました。

…先日のこの市政報告でも紹介した『東大和元気ゆうゆう体操』。市がH18年より取り組んでいる介護予防事業の一環として、もしくは、目玉施策として、市独自で開発した体操です。先日のお披露目の会では、今後、この体操と介護予防リーダーの活躍で、市の介護予防事業が大きく1歩を踏み出すという印象を受けました。そこで、今回は東大和市に住む高齢者が健康で、住み慣れた地域において、出来る限り自立した生活を送れるという目的のためにも、また、市の介護予防費の抑制のためにも効果的なこの事業について、和地ひとみは今回の一般質問で、この事業に対する市の考え、スタンスを尋ねてみました。

### ■ 介護予防事業に取り組む本当の意味は

…そもそも、この介護予防事業については、当市が独自で行ったことなのか、それとも国、都からの要請があってスタートした事業なのか。H18年に介護予防法の改正があってスタートしたことは予測できますが、市のスタンスとして「やらなければならない事業」という形での取り組みなのかどうかを尋ねてみました。

…その答弁については、法の改正によるものというものであることは当然であるが、一方で健康に生活してもらうことは市民にとっても有効であるという考えのもと市でもこの事業には取り組んでいるというものでした。よって、この事業には「やらない」という選択はできないという状況だが、介護給付費を抑えるという効果も市では見込んでいると同時に、費用を抑えるという短絡的なことではない、人間が生きていく上で大きな意味をもつという思いのもと取り組んでいるという答弁もありました。この答弁についてはまったく同感です。

### ■ 「元気ゆうゆう体操」をどう活かすのか？

…今回発表のあった、東大和市独自の介護予防体操「東大和元気ゆうゆう体操」。この開発期間と開発費用について確認をすると、開発については東京都健康長寿医療

センター、介護予防体操制作検討会の委員により、H22年6月から開始し、昨年5月から8月にその効果を検証。その後、平成24年2月に発表。費用については開発に約560万円との答弁でした。

…H24年度はこの体操の普及に注力して取り組むという答弁がありましたが、その普及目標については、具体的な数字は設定していないということでした。一般的に高齢者は65歳以上ですが、介護予防という点を考え、仮に60歳から参加をしてもらうことを想定した場合、当市の市民は約25000人です。全員が対象になるとは言えませんが、このうち何%の人にこの体操に参加してもらい、介護予防事業を推し進めていくのかという目標がなければ、事業の進捗、効果などは検証できません。この点については、何回か違った形で質問を試みましたが、最終的には具体的な目標を持たずに取り組むという答弁しか得られませんでした。

### ■ 市民の実生活に直接関わる事業こそ

…厚生労働省のホームページには「介護予防事業の効果的な取り組み事例」が掲載されています。全国には約1700の市町村がありますが、ここに効果的な取り組み事例として紹介されているのは125事例のみです。特に東京都においては新宿区、杉並区、荒川区、板橋区の4事例のみが評価されている状況です。

…掲載されている取り組みは様々ですが、当市の体操のような事例については、普及率、体操に参加した方の医療費の変化など数字で効果を計測し、その後、どのように改善していくかといった具体的な事業内容が掲載されているものが多くあります。他市で効果を計測できるのに、なぜ当市ではできないのか。事業と呼び、税金を使って行うのなら、その効果を検証し、改善し、より良いものにしていくというのが、取り組み姿勢として正しいのではないかと提言させて頂きました。

…現在、当市では観光を目玉に市のブランド化を推し進めようとしています。もちろん、それも良いことだとは思いますが、都心のベッドタウン、生活の地として位置づけられている当市では、今回、質問させて頂いた教育、介護といった生活に密着した市民サービスの向上こそが市のブランド化に繋がると考えます。市長からも、もっと経営感覚が必要だという発言もありましたので、今後もこれらの事業に注目していきます。